

週刊 鋼構造ジャーナル

2019

1 / 7 NO. 1908

週刊(毎週月曜日発行)／購読料・1カ年49,500円、6カ月27,000円(税・送料とも)／昭和55年9月26日第三種郵便物認可／発行所・株式会社 鋼構造出版／発行人・田中貴士 編集人・大熊稔／本社・東京都中央区日本橋茅場町2-2-2 三恵ビル5階 〒103-0025 電話 東京03(5642)7011(代表) F A X 03(5642)7077 / 大阪支社・大阪市西区西本町1-14-3 本町コスモビル 〒550-0005 電話06(6536)2601(代表) F A X 06(6536)7603 / 札幌支局・札幌市白石区北郷4条3丁目2-21 〒003-0834 電話011(879)7666 F A X 011(873)3636 / 振込銀行口座・みずほ銀行京橋支店024-1044873 / 郵便振替口座 東京00130-9-13713

おもな記事

- 鋼製橋梁業界の展望／18年度鋼橋需要は横ばい…… (2面)
- 「ポルト需給ひっ迫問題」措置第二弾／国交省・経産省 (4面)
- 新春特集企画「要求品質」私はこう思う?…… (12、13面)
- 19年課題と方針を聞く／白井清広(16面) 橋本伸一郎(16面)
- 横山丈夫(17面) 早野裕次郎(17面) 宇山孝貴(20面) 稲田達夫(20面)



今回完成した天城橋(左)、天門橋(右)。発注者・熊本県(写真提供:横河ブリッジ)

18年度鋼道路橋は22万ト 海外事業も積極展開へ

引き続き鋼橋の魅力をアピール

昨年度、再び20万トの増を回復した鋼道路橋。関係者はひと安心といった橋梁業界。18年度は、上期の時点では道路橋が前年度同期比31・7%増の約14万ト。東日本高速道路、中国日本高速道路、西日本高速道路の3社が大幅増加となったことによるもの。下期は、高速道路暫定開業区間の4車線化工事などをはじめ、大規模更新事業が堅調に物件すると見込まれ、昨年度より微増の22万トと予測。ただ、新設橋梁の需要は目立つ大型プロジェクトもなく、依然、厳しい状況が続くとしている。

日本橋梁建設協会では働き方改革に向けた現場の週休二日制の導入に関して、19年度には4週6閉所の完全実施を進めるとともに、徐々に4週8閉所をめざしていくとしている。引き続き、鋼橋の魅力を伝える活動を展開していく。なかでも、ライフサイクルコストに優れ、100年以上の耐久性を誇り、今なお現役で活躍する鋼橋の魅力をアピールしていく。また、地元にとってシンボルマークとなり、経済効果が見込まれる観光資源になるとともに、技術の伝承にもつながる多様な形式によるランドマーク的な鋼橋のプロジェクトの創出に向けての普及・広報活動なども実施していく。

海外事業では、政府の質の高いインフラ輸出の促進に歩調を合わせて、インドやバングラデシュなどの南アジアをはじめ、アフリカ、欧州まで幅広く積極的に活動しており、その成果が期待される。

- 松村康人(21面) 逸見俊一(21面) 石原慶明(22面) 寺門均(22面)
- 犬伏昭(24面) 大迫敏也(24面) 大川英行(26面) 箕村理(26面)
- 天雲博樹(27面) 阪上正章(27面) 福岡賢(30面)
- 新春特集企画「需給ひっ迫に立ち向かう」…… (31面)
- 《亥年》年男登場…… (32、33面)

36 ページ